

## 令和3年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

### 吉備でチャレンジ！イングリッシュキャンプ

#### 1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

英語を用いて外国人講師や仲間と協働して自然体験活動を行うことで、表現力やコミュニケーション能力、自ら考えて行動する力、チャレンジ精神を身につけるとともに、自国や他国の文化について理解を深める。また、外国人講師との交流を通して、外国文化に親しみを持つとともに、国際交流を楽しみながらコミュニケーションを図る。

#### 2. 事業の概要

##### (1) 期日

令和4年1月20日（木）、21日（金）日帰り2日

##### (2) 参加者

###### ① 募集対象

吉備高原小学校6年生

###### ② 参加者

吉備高原小学校6年生13人

##### (3) 講師等

奈義町情報企画課 国際交流員 ジェイク・デイビス 氏

岡山県県民生活部国際課 国際交流員 イーサン・コーン 氏

岡山大学 施設企画部 川上 真以 氏（1日目のみ）

##### (4) 企画・運営のポイント

- ① 日本語を理解できる外国人講師に来てもらったが、児童の前では英語しか話せないようにふるまってもらい、外国人講師との会話には英語を話すしかない状況にする。
- ② レクリエーションでは、外国人講師に指導を依頼し、母国の文化紹介や英語を使ったゲームで外国文化への興味を高める。
- ③ ICT機器を積極的に活用し、「話す」「聞く」だけでなく、「読む」「書く」の機会を増やす。
- ④ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、前日に宿泊から日帰りに変更になったが、宿泊棟での休憩時間を入れ、ベッドを使用して疑似宿泊体験を行った。

### 3. 活動の内容等

#### (1) 日程

1月20日(木)		1月21日(金)	
9:30	開会式・オリエンテーション (Opening&Orientation)	7:45	掃除(Clean up)
10:00	アイスブレイク(Ice Breaking)	8:00	朝食(Breakfast)
12:00	昼食(Lunch)	9:00	交流(Alternating current)
13:00	レクリエーション(Recreation)	9:30	点検(Room inspection)
14:30	ビンゴゲーム(Bingo Game)	10:00	野外炊事(Outdoor cooking)
16:30	寝具説明・休憩(Bed making・Rest)	14:00	閉会式(Closing)
17:30	夕食(Dinner)		
18:45	キャンドルのつどい(Candle night)		

#### (2) 活動の状況



【アイスブレイク】



【レクリエーション】



【ビンゴゲーム1】



【ビンゴゲーム2】



【キャンドルのつどい1】



【キャンドルのつどい2】



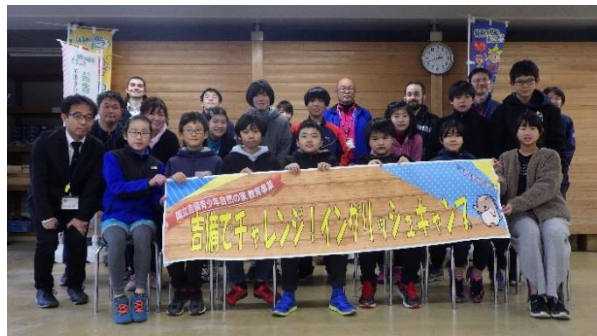
【野外炊事1】



【野外炊事2】



【野外炊事3】



【閉会式】

#### 4. 成果・課題

##### (1) 満足度

① 満足 76.9% やや満足 15.4% 無回答 7.7%

## (2) 参加者の声

- ① 最初は英語をしゃべれるか不安だったけど、たくさん英語を使えたからよかったし、とても楽しかった。
- ② 最初は不安だったけど、話すうちに楽しく英語を話すことができてよかった。
- ③ 積極的に英語を使い、英語力が上がった。
- ④ こんなことは簡単にできないから、参加できてよかった。
- ⑤ 英語をたくさんしゃべることができた。ゲームがとても楽しかった。
- ⑥ たくさんのアクティビティが用意されていて楽しく活動することができた。
- ⑦ 泊まれなかったことは残念だけど、とても楽しかった。

## (3) 成果

- ① 日本語を理解できる講師に来てもらったが、児童の前では英語しか話せないようにふるまってもらい、講師との会話には英語を話すしかない状況にすることで、講師に英語で話しかける児童が多くなった。
- ② 海外の文化や現地のアクティビティを講師に紹介してもらったことで、外国文化に親しむことができた。
- ③ レストランに英語表記の食事メニューを設置し、野外炊事では英語表記のレシピを配ることや、ICT 機器を活動に取り入れることで、英語を「読む」「書く」機会を増やし、「読む」「書く」への意欲も高めることができた。
- ④ 前日に日帰りに変更になったが、宿泊棟での休憩時間を取り入れ、ベッドを使用した疑似宿泊体験を行った。今回参加した学年は、新型コロナウイルスの影響により宿泊を伴う研修を小学校5年からすべて実施できなかった学年だったため、宿泊の雰囲気を経験することは好評だった。

## (4) 今後の課題

- ① 外国人講師は日本語を話せない設定にしたため、児童と面識のある町内のALTを活用できなかった。今回の交流員は次年度2名とも異動になるため、依頼先を検討する必要がある。
- ② 現在英語が堪能な職員がいないため、通訳が必要であった。町や町営塾kii+（地域おこし協力隊）、国際化推進協会などとの連携を考える必要がある。
- ③ ビンゴゲームで所内を散策したが、児童の活動範囲が予想以上に広くなり、現在地や集合場所までの所要時間がわからなくなる班がいた。屋外を自由に使う活動の時は所内の地図を持たせるほうが良い。また、事前に設置したXとZに関連した表示も児童たちが活動したエリアとは違うエリアに設置したため発見してもらえなかった。複数エリアに設置するか、活動範囲を制限する必要がある。
- ④ ビンゴゲームでは、学校のタブレットを使用し、写真を撮ったり、発表に使用したりしたが、発表の方法を決めていなかったため混乱が生じた。事前に発表の方法を決めて学校に指導を依頼する必要がある。

担当：企画指導専門職付 小城 洋介